

国土交通省近畿地方整備局
資 料 配 布

配 布	平成27年9月9日（水）
日 時	14時00分

件 名	「大阪湾港湾の基本構想」 ～スマートベイの実現を目指して～（原案）がまとまりました。
-----	---

概 要	<p>平成27年9月4日に開催した「大阪湾港湾の基本構想」第5回懇談会において基本構想（原案）がまとまりましたのでお知らせします。</p> <p>「大阪湾港湾の基本構想」とは、主要な大阪湾港湾の港湾計画の指針となること等を目的として、概ね10年先の将来を見通して策定するものです。</p> <p>今後は、パブリックコメントを経て広く意見を集め、港湾管理者、近畿地方整備局で構成する「大阪湾連携推進協議会」を年内に開催し最終決定する予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「大阪湾港湾の基本構想」第5回懇談会 平成27年9月4日（金） 10:00～11:30 三ノ宮研修センター</li> <li>・ 出席者及び議事概要は、別紙1のとおりです。</li> <li>・ 懇談会で議論いただきました「大阪湾港湾の基本構想」につきまして、副題を「スマートベイの実現を目指して」としております。この「スマートベイ」の考え方につきまして、基本構想本文より「スマートベイの考え方」を抜粋し、別紙2として配布いたします。</li> <li>・ 「大阪湾港湾の基本構想」の概略を説明した「概要版」を別紙3として配布いたします。</li> </ul>
-----	--

取り扱い	_____
------	-------

配布場所	近畿建設記者クラブ 神戸海運記者クラブ 大手前記者クラブ 神戸民放記者クラブ みなと記者クラブ
------	--

問合せ先	国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 課長 島村 博 課長補佐 石田 博 TEL (078) 391-8361
------	---

「大阪湾港湾の基本構想～スマートベイの実現を目指して～」(原案)について

1. 概要

平成17年9月に策定された「大阪湾港湾の基本構想(略:「基本構想」)※1～関西シリコンベイ構想～」の前後から、大阪湾ベイエリアは「パネルベイ」と評され活況を呈したものの、米国のサブプライム問題に端を発した未曾有の世界経済危機や製造拠点の流出、東日本大震災の発生や、それに伴うエネルギー源の転換、人口減少、少子・高齢化など、社会・経済情勢は大きく変化を続けております。

このような中、平成26年8月6日「第26回大阪湾港湾連携推進協議会※2」を開催し、今後概ね10年先の大阪湾港湾の将来を見通した「基本構想」を策定していくことが確認されました。

今般、幅広く専門的な知見を集めるため、関係分野の有識者らで構成する「大阪湾港湾の基本構想懇談会※3」を設置し、大阪湾港湾の将来のあるべき姿を想定しつつ、港湾に求められる役割や、具体的な施策等(「基本構想」)を、議論してきたところです。

---

(参考)

※1. 大阪湾港湾の基本構想とは

大阪湾港湾の背後圏をとらまえ、「産業」や「物流」「防災」「環境」などについて、大阪湾の将来のあるべき姿を想定し、港湾に求められる役割や、具体的な施策等とりまとめ、今後の大阪湾諸港の港湾計画改訂時の指針となるものです。

※2. 大阪湾港湾連携推進協議会(略:湾連協)とは

大阪湾における港湾の開発、利用及び保全に関する重要事項について連絡調整を図り、港湾相互の広域的な連携推進に取り組むことにより、広域的且つ総合的な見地から、大阪湾各港の開発、利用及び保全に資することを目的として、昭和51年に発足した協議会です。

過去には、大阪湾港湾の基本構想、フェニックス計画、阪神港一開港化、入港料の低減などを議論しています。構成は、港湾管理者、近畿地方整備局となっています。

※3. 大阪湾港湾の基本構想懇談会とは

大阪湾港湾連携推進協議会から求められて設置するもので、学識経験者を含めた関係者が一堂に会し、「大阪湾港湾の基本構想」について議論する場。事務局は近畿地方整備局。

---

【第五回懇談会 日時・場所】

平成27年9月4日（金） 10:00～11:30

三ノ宮研修センター 5階 505会議室

【委員及び出席者名簿】

（敬称略） ◎座長、 ○座長代理

	所 属		委 員	出 席 者	
学 識 経 験 者	大阪大学大学院教授		赤井 伸郎	出席	
	流通科学大学教授		今西 珠美	出席	
	一般社団法人京都経済同友会理事		上村 多恵子	出席	
	京都大学防災研究所教授		小野 憲司	出席	
	神戸大学名誉教授		◎黒田 勝彦	出席	
	神戸大学大学院教授		○竹林 幹雄	出席	
	大阪大学大学院教授		西田 修三	出席	
	京都大学経営管理大学院経営研究センター 特命教授 株式会社社会システム総合研究所 代表取締役		西田 純二	出席	
	京都大学大学院准教授		松島 格也	欠席	
	流通科学大学教授		森 隆行	出席	
民 間 ・ 団 体	公益社団法人関西経済連合会	理事	神田 彰	出席	
	一般社団法人日本船主協会 阪神地区船主会	議長	伊藤 隆夫	出席	
	大阪港運協会	会長	溝江 輝美	代理	理事・業務部長 西田芳治
	兵庫県港運協会	会長	佐伯 邦治	欠席	
	阪神国際港湾株式会社	専務執行役員	豊田 巖	出席	
	大阪湾広域臨海環境整備センター	常務理事	池田 秀文	出席	
港 湾 管 理 者	大阪府	港湾局長	井上 博睦	出席	
	兵庫県	県土整備部長	田中 稔	代理	港湾課長 土江 明
	大阪市	港湾局長	徳平 隆之	出席	
	神戸市	みなと総局長	吉井 真	代理	技術部長 田中 誠夫
国 土 交 通 省	近畿運輸局	海事振興部長	前川 一郎	出席	
	神戸運輸監理部	海事振興部長	村松 智司	出席	
	近畿地方整備局	副局長	池田 薫	出席	
		港湾空港部長	稲田 雅裕	出席	
		神戸港湾事務所長	佐藤 敬	代理	副所長 河村 良一
	大阪港湾・空港整備事務所長	西村 尚己	出席		

## 【オブザーバー】

所 属			オブザーバー	出席者	
経済産業省	近畿経済産業局	総務企画部 企画課長	細川 洋一	代理	産業構造係長 杉本 泰寛
国土交通省	大阪航空局	空港部 次長	森住 直樹	代理	関西国際空港・大阪国際空 港課長 南 義人
	近畿地方整備局	道路部 道路調査官	日野 雅仁	欠席	

## 【議事次第】

- (1) 第4回懇談会の主なご意見
- (2) 大阪湾港湾の基本構想（案）について
- (3) 大阪湾港湾の基本構想策定までのスケジュール

## 【主な発言】

- 第4回の懇談会で委員より意見があった「現状」、「課題」及び「取り組み」について、関連性をもって整理され、まとまった資料となっている。
- スマートベイの概念図については、色々な議論があったが、5つの概念の関係性がわかりやすくなり、良くなったと思う。
- パブリックコメントの実施時においては、「概要版」、「本文」、「参考資料」に加えて、基本構想中の「課題」とそれに対する「取組」の対比表をつけると理解しやすい。
- 地域間連携については、広域的な組織連携を単に進めるのではなく、戦略的、または効率的、効果的に実施していく旨を記載してほしい。
- 高齢化及び人口減少に伴い労働人口が減少する。スマート化はこういう問題にも解決策を提供できる概念なので補強してほしい。
- 大阪湾港湾の説明をする際、大阪湾の地図をいきなり提示するのではなく、世界の中の日本、日本の中の大阪湾の位置付け、という風に、徐々に大阪湾にフォーカスする流れにしてほしい。

## 【今後の予定】

本懇談会で議論いただきました基本構想（原案）、概要版（原案）、参考資料につきまして、9月下旬より約3週間程度、パブリックコメントを実施する予定です。その後、港湾管理者、近畿地方整備局で構成する「大阪湾連携推進協議会」で議論し最終策定する予定です。

大阪湾港湾の基本構想～スマートベイの実現を目指して～（原案） 目次

I はじめに

1. 新たな大阪湾港湾の基本構想の策定にあたって
2. 大阪湾を取り巻く情勢の変化
3. 「スマートベイ構想」の基本的な考え方

II 大阪湾を取り巻く現状と課題

1. 産業・貿易・物流
2. 文化・交流・暮らし
3. 環境・エネルギー
4. 安全・安心

III 未来の大阪湾港湾 ～スマートベイの実現を目指して～

1. 大阪湾の目指すべき将来像
2. スマートベイの実現に向けた取組
  - (1) 持続的な発展を支える社会を構築するための取組 (Sustainable Development)
  - (2) 世界とつながるための取組 (Market Globalization)
  - (3) 最先端をリードするための取組 (Advanced Technology and Society)
  - (4) 成熟した地域社会を切り拓くための取組 (Regional Cultivation)
  - (5) 伝統を活かし育むための取組 (Traditional Industry and Culture)

3. スマートベイの実現に向けて

用 語 集

本文は基本構想（原案）「I はじめに：3. 「スマートベイ構想」の基本的な考え方」から抜粋。

### 「スマートベイ構想」の基本的な考え方

現在、様々な分野において、ICT を活用した「スマート化」が進展している。一般に「スマート化」とは、情報通信技術を活用しこれまで制御できなかったものを制御し、さらにそれらをネットワークでつなぎ、それぞれが互いに連携・補完し、全体最適化や周辺環境との調和といった高度な運用を可能とすることを意味している。スマート化の進展は、産業構造にも影響を与えており、例えば、研究開発や IT 産業など知識や情報を生産要素とする知識集約型産業が台頭するとともに、従来の労働集約型産業、資本集約型産業の分野においても、知識集約型の要素を含むなど産業構造を大きく変化させている。

世界の港湾においても、ICT を活用して、アイドルタイムの短縮を目指すなどスマート化されたコンテナターミナルも増えつつある。激しい国際競争にさらされる中で、さらなる港湾運営の効率化が希求されている。また、我が国の成熟に伴い港湾に期待される役割も多様化しており、これらに適切に対応するためには、ICT を活用した「スマート化」だけではなく、「無駄なく、洗練された手法で、関係する主体が連携しつつ」といったスマートの本来の意味での重要性は増し、また、「スマート化」は港湾に限らず、高騰するエネルギー対策や、逼迫しつつある地球温暖化への対応としてもますます重要性を増している。

こうした背景を踏まえ、大阪湾を取り巻く現状と課題を様々な視点から認識した上、本基本構想における大阪湾港湾が目指す将来像の方向性については、社会インフラの構築や連携を通じて継続的に発展(Sustainable Development)し、市場のグローバル化が益々進展する中で (Market Globalization) 世界とのつながりを広げ、最先端の技術 (Advanced Technology and Society) でリードし、一方で、成熟した地域社会を切り拓き、(Regional Cultivation)、関西の豊かな伝統と文化 (Traditional Industry and Culture) を活かす「SMART 戦略地域」を目指すこととした。

大阪湾は、古くから交易拠点として発展してきた神戸港や、江戸時代の堂島における世界初の米の先物取引市場、現在では神戸の医療産業都市の形成など、我が国の最先端をリードする地域として発展してきており、こうした歴史的な背景からも、大阪湾がいち早くスマート化に取り組みアジアの先進地域を実現していくことが期待される。

これらを進めるためには大阪湾に所在する、港湾管理者、民間事業者、国の関係機関等が互いに従来の枠を超えた高度な連携をしていくことが必要不可欠であり、このような意味においても、「スマート化」を図る必要がある。このような考え方を本基本構想では「スマートベイ構想」と呼び、副題を「スマートベイの実現を目指して」とすることとした。

## 大阪湾港湾と取り巻く背景

平成17年の前基本構想「関西シリコンベイ構想」策定から10年、平成21年のベイエリアのあるべき姿を示した「グリーンベイ・大阪湾」策定から6年が経過し、その間**様々な社会情勢が変化**してきた。例えば、

- 人口減少、高齢化の急激な進行、これに伴う労働人口の減少
- 大阪湾港湾に立地する産業構造の転換
- 東アジア、東南アジア諸国の経済成長に伴う世界的な物流システムの変化
- 世界的なクルーズ需要の拡大
- ICTの進展と拡大
- 広域処分場の受入完了に伴う次期処分場整備の必要性
- 頻発する自然災害 等



これらの情勢変化に対し、さらに概ね10年後においても**社会、経済、環境、防災**など様々な面からの要請等に応えられる**港湾の実現**に向け、大阪湾港湾にとって今後必要となる方向性を打ち出す必要性が生じた。

## 大阪湾港湾の基本構想の構成

### I. はじめに

1. 新たな大阪湾港湾の基本構想の策定にあたって
2. 大阪湾を取り巻く情勢の変化
3. 「スマートベイ構想」の基本的な考え方



### II 大阪湾を取り巻く現状と課題

1. 産業・貿易・物流
2. 文化・交流・くらし
3. 環境・エネルギー
4. 安全・安心



### III 未来の大阪湾港湾 ～スマートベイの実現を目指して～

1. 大阪湾の目指すべき将来像
2. スマートベイの実現に向けた取組
  - (1) 持続的な発展を支える社会を構築するための取組 (Sustainable Development)
  - (2) 世界とつながるための取組 (Market Globalization)
  - (3) 最先端をリードするための取組 (Advanced Technology and Society)
  - (4) 成熟した地域社会を切り拓くための取組 (Regional Cultivation)
  - (5) 伝統を活かし育むための取組 (Traditional Industry and Culture)
3. スマートベイの実現に向けて

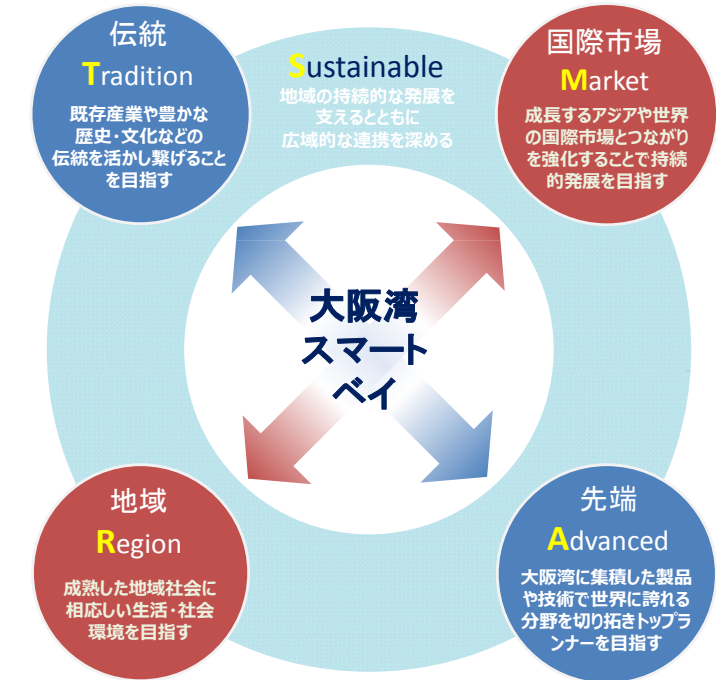
## なぜスマートベイなのか？

前基本構想以降で顕著な社会情勢の変化として

- ICTの進展により、様々なものが連携・補完し、全体的に最適となる周辺環境と調和した持続的な発展を可能となった
- 「かしこく」、「無駄なく」、「洗練された」、「連携」等いわゆる「**スマート**」が時代を拓くキーワードに

大阪湾を取り巻く現状と課題の整理から、課題解決に向けて導かれる方向性のキーワードとして

- 持 続 (Sustainable)
- 国際市場 (Market)
- 先 端 (Advance)
- 地 域 (Region)
- 伝 統 (Tradition)



## スマートベイ実現のための主な取組事例

### 持続的な発展を支える社会を構築するための取組 (Sustainable Development)

- 経済活動を支えるための連携によるさらなるインフラの充実
- 持続的な発展を支える循環型社会の形成に向けた取組の深化
- 自然災害に対する地域の安全・安心向上施策の推進

### 世界とつながるための取組 (Market Globalization)

- クルーズ振興にむけた受入環境の向上
- 成長著しいアジア諸国とのシームレス化
- 貿易構造の変化に適切に対応した施設の高度化

### 最先端をリードするための取組 (Advanced Technology and Society)

- 国際標準の港湾サービスの充実による港湾の国際競争力強化
- 世界的な低炭素社会実現の動きに対応するためのICT等の技術の活用
- 新興経済国市場への展開を意識した産業支援のための物流システムの構築

### 成熟した地域社会を切り拓くための取組 (Regional Cultivation)

- 成熟社会に即して既存ストックを「賢く使う」
- 多様な主体の連携に基づいた海域環境の改善・創生
- 地域間連携の強化

### 伝統を活かし育むための取組 (Traditional Industry and Culture)

- 大阪湾の伝統的産業の持続的な発展への支援
- 多様な文化や伝統の次世代継承と、魅力的な地域づくりへの貢献
- 「みなと」に対する認知度や親しみを深める取組の推進